

Society5.0実現化研究拠点支援事業 公募説明会

平成30年5月15日
文部科学省 研究振興局



Society5.0実現化研究拠点支援事業

平成30年度予算額 : 700百万円 (新規)

背景・課題

- Society5.0の経済システムでは、「**自立分散**」する多様なものを新たな技術革新を通じて「**統合**」することが大きな付加価値を産むため、**眠っている様々な知恵・情報・技術・人材をつなげ、イノベーションと社会課題の解決をもたらす仕組みを世界に先駆けて構築**することが必要。
- 大学等では知恵・情報・技術・人材がすべて高い水準でそろう一方で、**組織全体のポテンシャルを統合し複数の技術を組み合わせる社会実装を目指す取組**や、**実証実験のコーディネート等を担う人材・データの整理・活用を担う人材**が不足。
- **Society5.0の実証・課題解決の先端中核拠点として大学等によるイノベーションの先導が必須。**

事業概要

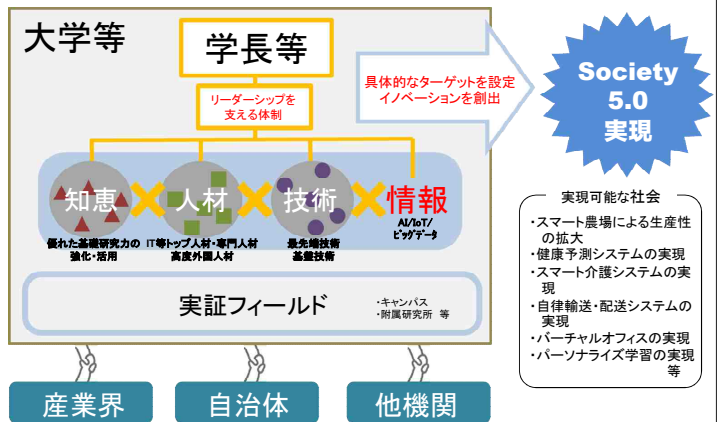
【事業の目的・目標】

- 大学等において、情報科学技術を基盤として、事業や学内組織の垣根を越えて**研究成果を統合し、社会実装に向けた取組**を加速するため、学長等のリーダーシップにより**組織全体としてのマネジメント**を發揮できる体制構築を支援
- 企業等からの本格的な投資の呼び水となることが見込まれる大学等での**実証試験等の実施や概念実証に必要な研究費**を支援

情報科学技術を核として
大学等を Society5.0の実証・課題
解決の先端中核拠点に

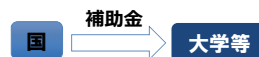
【事業概要・イメージ】

- 下記を満たす「Society5.0実現化構想」を大学等から公募、審査・採択
- ① Society5.0の実現に向けた**明確なビジョンと具体的なターゲット**を設定
- ② **学長のトップマネジメント**を支援し学内外に自立分散的に存在する**知恵・情報・技術・人材を結びつける体制**の構築
- ③ 支援期間中に①のターゲットの実証を行う具体的な計画を策定
- 5年間の支援(ステージゲート評価を経て、5年間の延長も可能)
- 法人単位での申請(他大学や自治体等の関係機関が参画することも可能)



【事業スキーム】

- ✓ 支援対象機関: 大学等
- ✓ 事業期間: 平成30年度～平成34年度
(ステージゲート評価を経て、5年間の延長も可能)
- ※5年度目に支援金額と同規模以上の大学等、産業界、自治体などの関係機関による貢献



目次

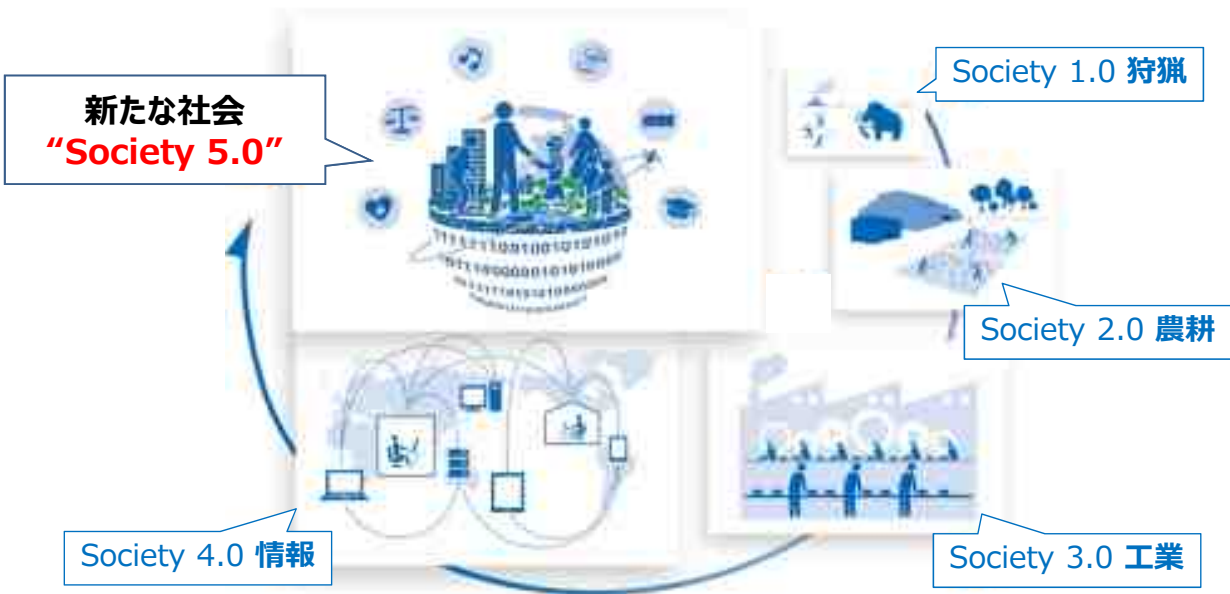
1. 背景
2. 概要
3. スケジュール

目次

1. 背景
2. 概要
3. スケジュール

Society5.0とは

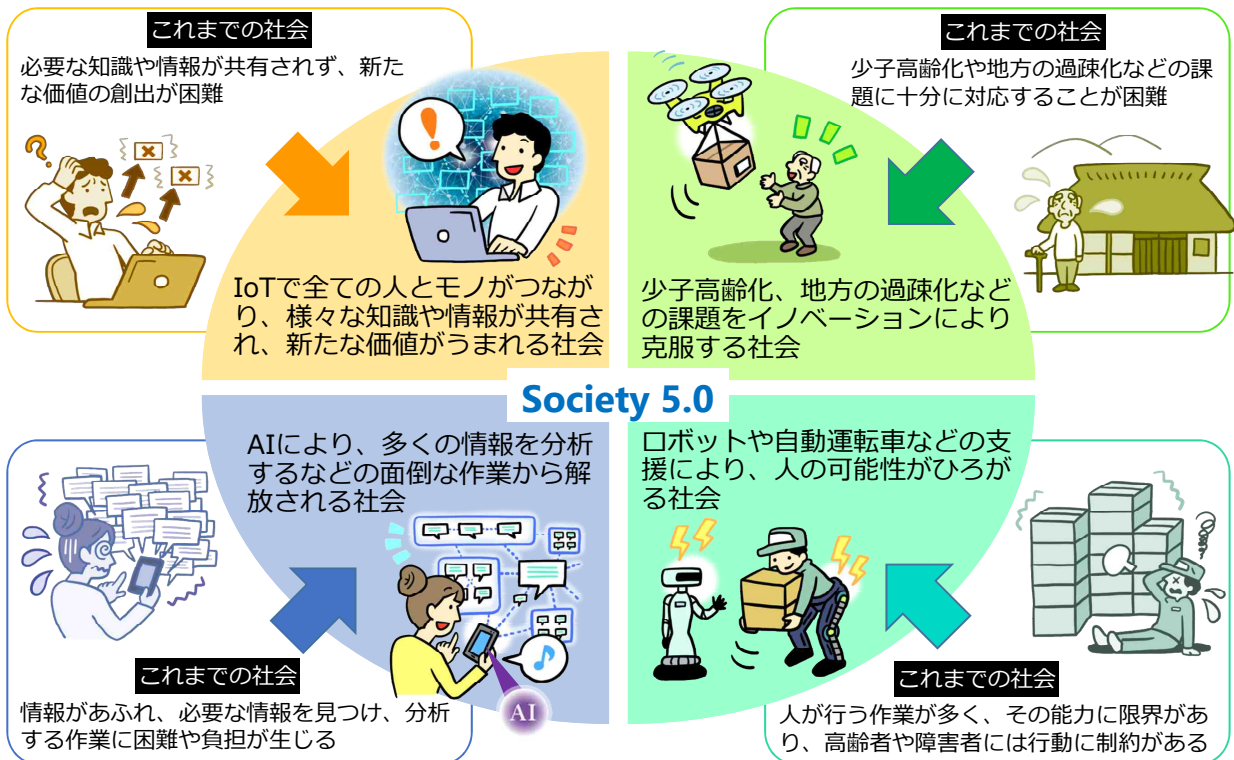
サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、
経済発展と社会的課題の解決を両立する、
人間中心の**社会（Society）**



[内閣府作成]

5

Society5.0で実現される社会



[内閣府作成]

6

なぜ今Society5.0の実現が必要なのか

情報科学技術の進展が、我が国が直面する社会課題の解決への切り札

生産年齢人口の減少

65歳以上1人あたりを支える労働者年齢人口*

1975年

2025年

10人 ⇒ 2人

国立社会保障・人口問題研究所 人口統計資料(2013) II年別人口
「図2-2 年齢3区分別人口：1884～2060年」による。

AI活用によるインパクト

AI技術の国内関連市場規模*

2015年

2030年

4兆円 ⇒ 90兆円

EY総研、2015による。

地域の高齢化

65歳以上が25%以上の都道府県*

2010年

2015年

23県 ⇒ 41県

総務省「国勢調査」による。

各国の取り組み



Industrie
4.0
: ドイツ政府



Industrial
Internet
: GE



中国製造
2025
: 中国政府

IoT等を重視した取組

7



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

政府関連文書の記載

未来投資戦略2017 (平成29年6月9日 閣議決定) 抜粋

第1 ポイント

第4次産業革命の進展により価値の源泉が「ヒト(人材)」「データ」に移るSociety 5.0の経済システムでは、離れて「自立分散」する多様なもの同士を、新たな技術革新を通じてつなげ「統合」することが大きな付加価値を産む。「知恵」が価値を生み、多様な「個」がいかされる社会が到来する中、あらゆる世代の意欲ある人々が技術革新を味方につけ、**眠っている様々な知恵・情報・技術・人材を「つなげ」、イノベーションと社会課題の解決をもたらす仕組みを世界に先駆けて構築**できれば、経済活動の最適化・高付加価値化と活力ある経済社会を実現できる。

II-(A)-3. イノベーション・ベンチャーを生み出す好循環システム 我が国が強い分野を支える拠点・人材への集中投資・世界のCenter of Excellence を目指し、組織の長のトップマネジメントの下、内外のトップ研究者を結集しベンチャーを含む産業界と連携してイノベーションを生み出せるよう、来年度中に少数の拠点に絞りリソースを集中投下する。加えて、現在の取組を検証し、将来的に世界トップを狙える分野の拠点整備を検討する。

第2 具体的施策

II-(A)-4. イノベーション・ベンチャーを生み出す好循環システム ii) 我が国が強い分野への重点投資
・世界のCenter of Excellence を目指し、組織の長のトップマネジメントの下、内外のトップ研究者を結集し、**世界トップレベルの大学・研究開発法人の研究拠点がベンチャーを含む産業界と連携してイノベーションを生み出せるよう、来年度中に少数の拠点に絞りリソースを集中投下**する。加えて、現在の取組の検証の上、将来的に世界トップを狙える分野の拠点整備について検討する。

人工知能を駆使した未来社会に向けて

(平成29年5月16日 自由民主党人工知能未来社会経済戦略本部) 抜粋

5. 新産業創出の拠点化、ベンチャー支援(産業化の推進)

世界トップレベルの大学や研究開発法人における研究設備や人材、ベンチャーや投資期間を含めた民間企業の多様なリソースを集中させて、世界レベルで科学技術イノベーションを創出する人工知能のセンターオブエクセレンスを形成すべきである。

8



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

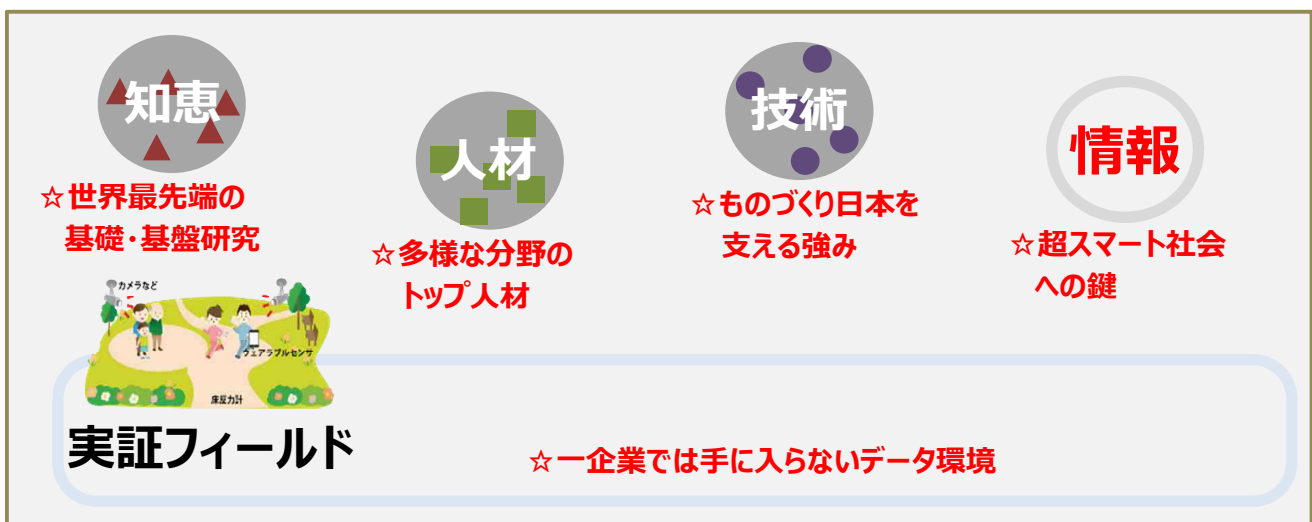
目次

1. 背景

2. 概要

3. スケジュール

大学の現状課題とSociety5.0に向け求められる姿



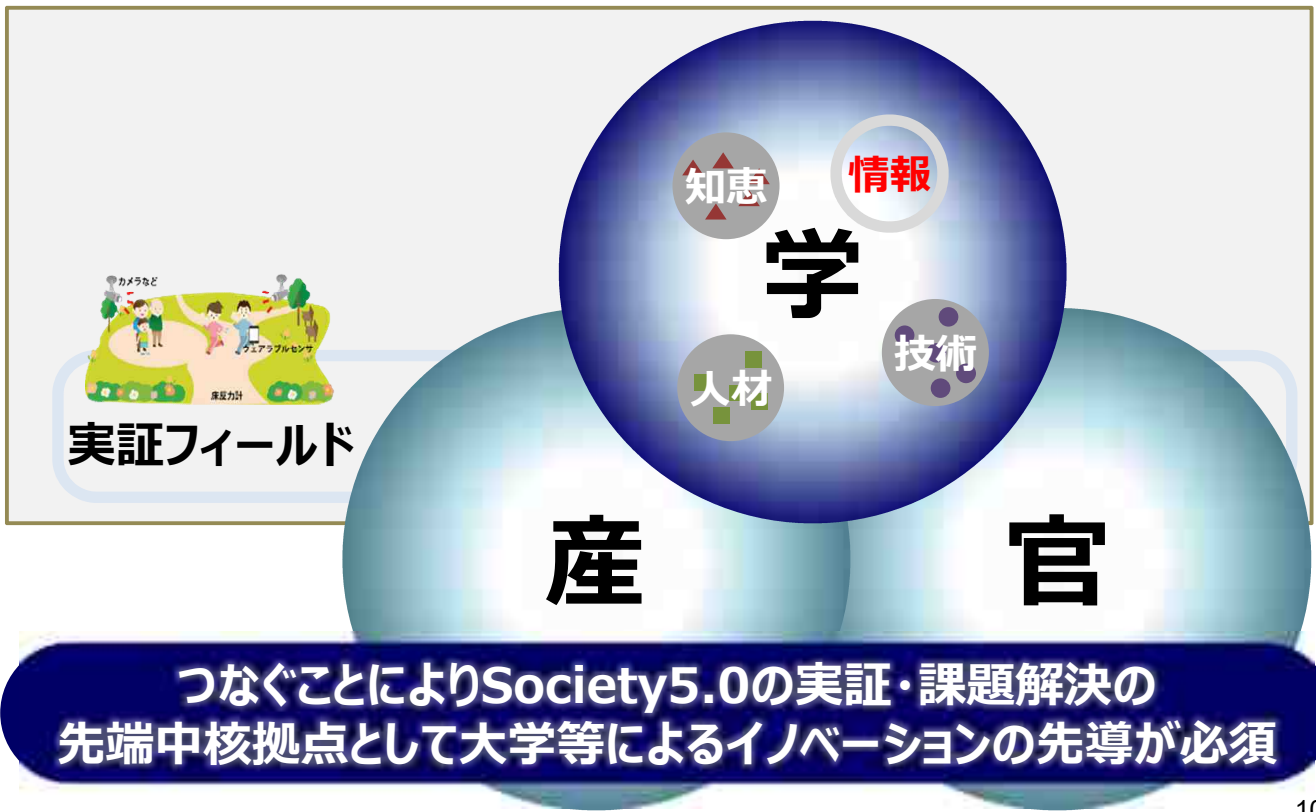
産業界

自治体

他機関

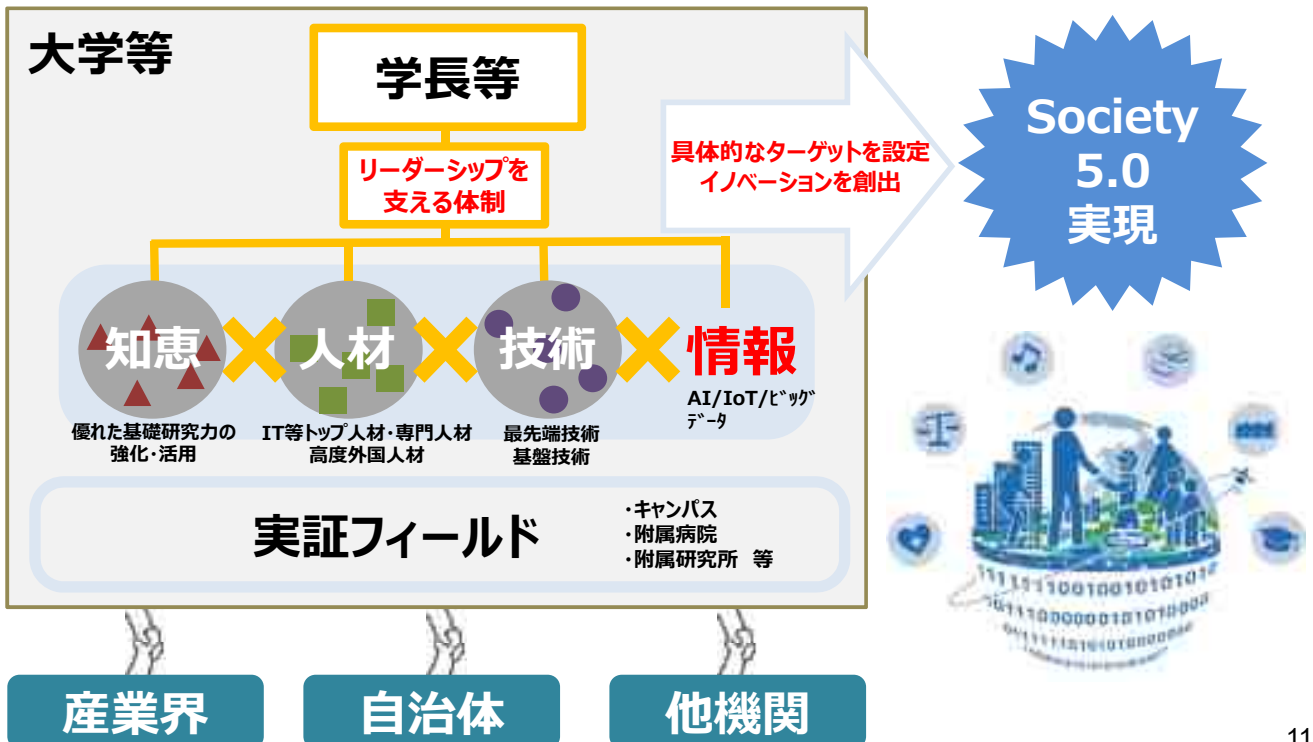
❗ 組織全体のポテンシャルを統合し社会実装を目指す取り組みが不足

❗ 実証試験を実施するに当たって、技術相互のコーディネートや各種規制や倫理的な課題を一つずつ解決する必要があるが、そのようなことを担う人材が不足



Society5.0の実現を目指す大学等の先端中核拠点

情報科学技術を基盤として事業や学内組織の垣根を超えて成果を統合、社会実装を加速



Society5.0の実現を目指す大学等の先端中核拠点

情報科学技術を基盤として事業や学内組織の垣根を超えて成果を統合、社会実装を加速

- 学長等のリーダーシップの下、情報科学技術を基盤として事業や学内組織の垣根を超えて研究成果を統合し、社会実装に向けた取組を加速することにより、**Society5.0実現に不可欠な技術等の実証を目指す拠点を形成してください。**
- 拠点は、**本事業終了後も各機関においてその機能を維持していただくことを求めます。**
- 拠点は、中心的な役割を果たす「**代表機関**」と、必要に応じて、拠点に参画し、代表機関と協働する「**協力機関**」から構成してください。

産業界

自治体

他機関

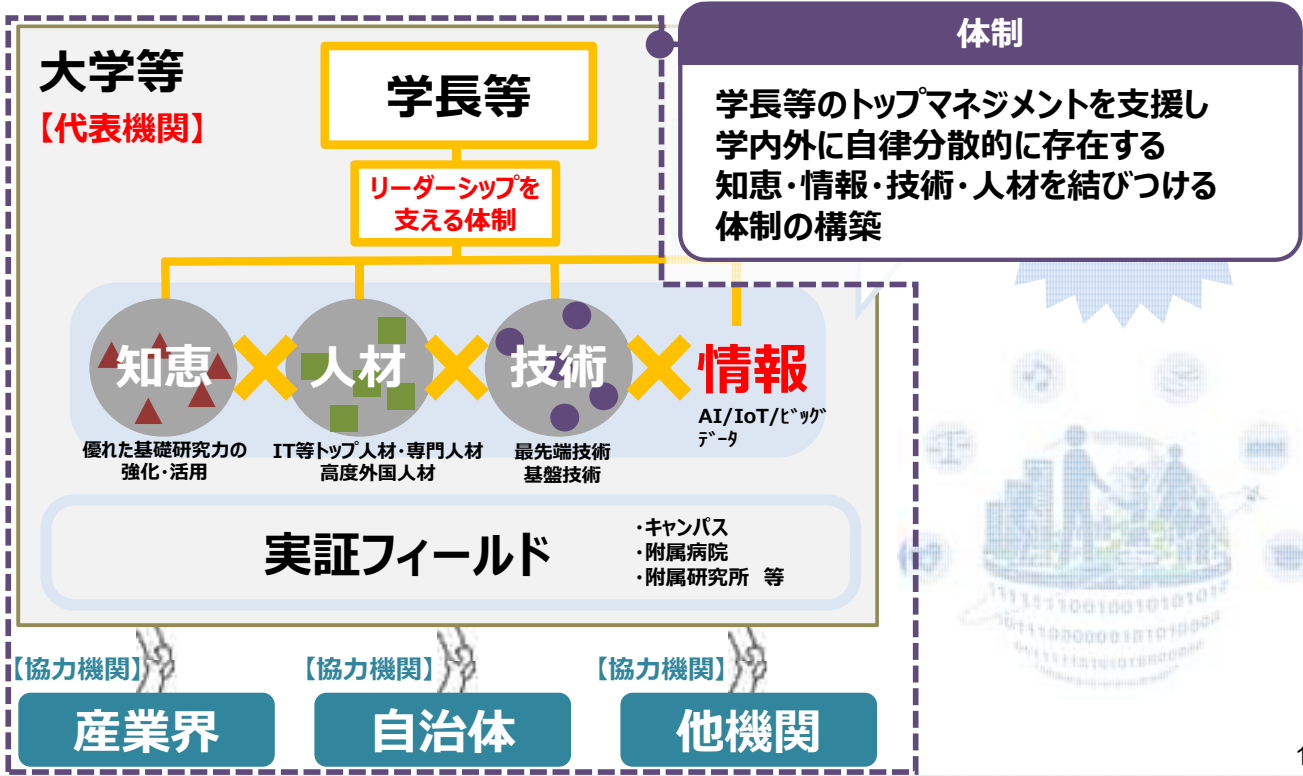
12

公募の概要（公募要領p2-3）

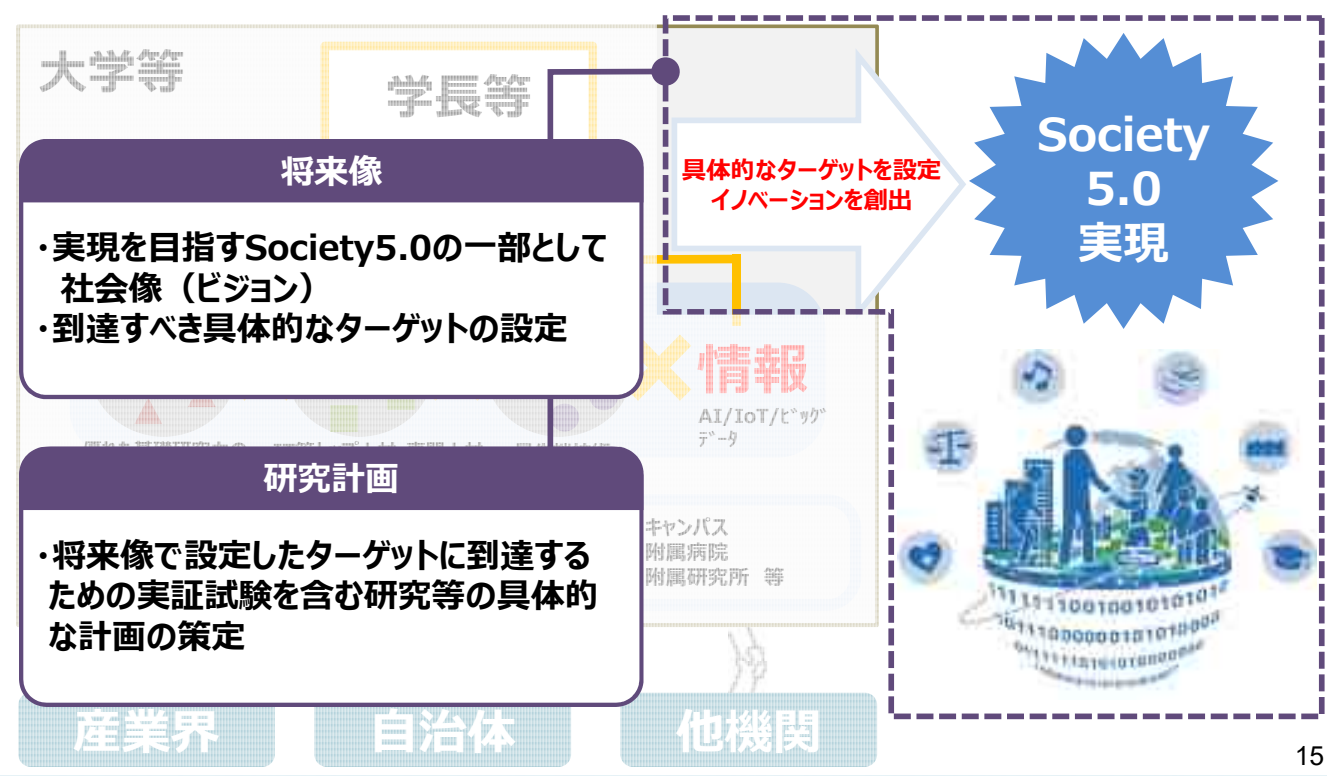


13

公募の概要（公募要領p2-3）



公募の概要（公募要領p2-3）



補助の内容：対象とする取組（公募要領p3-4）

研究開発に関する取組

- 情報科学技術を基盤として、事業や学内組織の垣根を越えて研究成果を統合し、社会実装を目指す取組。
- 本体制の下、企業等からの本格的な投資の呼び水となることが見込まれる大学等での実証試験等の実施や概念実証に必要な研究開発。
- 拠点が設定するSociety5.0実現化構想の達成への寄与が期待できる、先端的な情報科学技術の研究開発。

体制に関する取組

- 学長等のリーダーシップにより組織全体としてのマネジメントを発揮できる体制の構築。
- 一つの大学等のみならず、産業界、自治体、他研究機関等も含めた連携体制の構築。

計画に関する取組

- 社会実装するうえでの、倫理的・法的・社会的な課題の解決や国際標準化に向けた取組を含む計画。
- 実現に必要な中核技術とその実現に必要な周辺技術や普及についてオープンイノベーションを志向した計画。
- 支援期間中に構築した学内体制や実証システムが終了後も持続可能な形で発展していくための仕組み作りを含む計画。

16

補助の内容（公募要領p3-5）

上限額

各年度あたり70,000万円（間接経費込み）

※平成31年度以降は、予算確保等の状況に応じて調整。

事業期間

最大5年間 ※5年度目にステージゲート評価を受け、最大5年間延長することが可能

資金区分	2018	2019	2020	2021	2022	2023
補助金	■	■	■	■	■	■
外部資金	■	■	■	■	■	■

● 中間評価 (2020年)

● ステージゲート評価 (2022年)

商用化(営利目的含め)など成果の利用

選定件数

1件程度

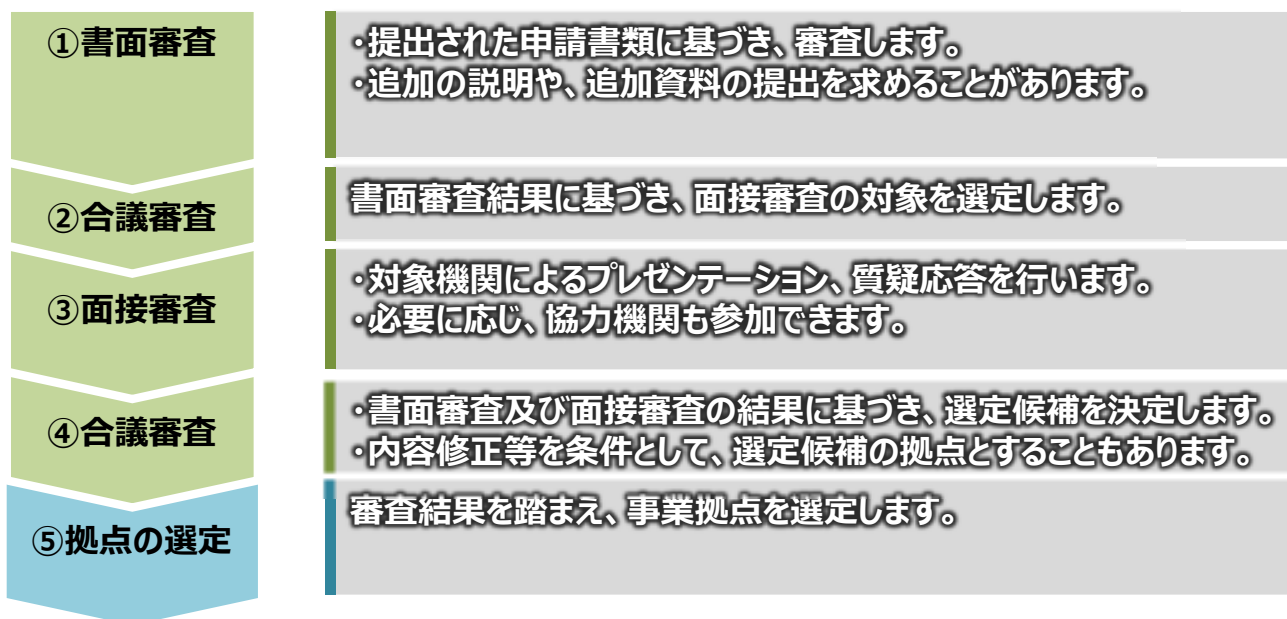
17

審査の体制

- 「Society5.0実現化研究拠点支援事業推進委員会」を設置し、各委員による書面審査及び面接審査とその後の委員の合議により審査します。
- 選定事業は、文部科学省において、委員会の審査結果を踏まえ、決定します。
- 委員については、審査の公平性等の観点から然るべき適切な時期に公表します。



審査の手順



めざす
Society5.0像

革新的なビジョン設定

目標・
アプローチ

- ・経済/社会的インパクト
- ・具体的かつ戦略的計画
- ・新しいアイデア、概念
- ・倫理的・法的・社会的課題等を解決した上で
の社会実装
- ・国際競争力

研究開発
体制

- ・産学官連携含めた
ビジョン実現性
- ・進捗状況の適切な
マネジメント
- ・関連技術の進歩などへ
の柔軟な対応
- ・多様な人材の活躍

計画

- ・事業内容、マイル
ストーン設定
- ・評価指標（KPI等）
- ・課題の明確化、
クリティカルパスの把握

終了後の
継続性

- ・自律的なイノベーション
創出活動の基盤整備
- ・オープンイノベーション
- ・イノベーション創出拠点
としての発展

目次

1. 背景

2. 概要

3. スケジュール

公募スケジュール（予定）

募集開始	5月1日（火）
公募説明会	5月15日（火） 15時
募集受付締切り	6月18日（月） 17時
書面審査	6月中旬～7月中旬
面接審査	7月下旬～8月中旬
採択課題の通知・発表	8月下旬～9月上旬
交付申請	9月以降
交付決定	9月

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	公募期間	書面審査	面接審査	採択通知	交付手続き	事業実施
	● 公募説明会					● 交付決定

22

注意事項

応募申請

- 本事業への応募は、府省共通研究開発管理システムe-Radを通じて行っていただきます。
e-Radの使用に当たっては、研究機関及び研究者の事前登録が必要となります。
- 登録まで日数を要する場合がありますので、2週間以上の余裕をもって登録手続きをしてください。

【e-Radホームページ】



23

注意事項

応募申請

- 本事業への応募は、府省共通研究開発管理システムe-Radを通じて行っていただきます。
e-Radの使用に当たっては、研究機関及び研究者の事前登録が必要となります。
- 登録まで日数を要する場合がありますので、2週間以上の余裕をもって登録手続きをしてください。

【e-Radホームページ】



24

注意事項

【応募申請様式】基本情報

研究課題名 (英語表記)	
研究種目等	
研究期間	2018年10月1日～●●年3月31日(●年6ヶ月)
分野	
分科	
細目	
細目表	
キーワード	
細目表以外の キーワード	
代表機関名	
住所	〒
統括責任者 氏名	(フリガナ) (漢字等)
職名	学長
研究開発課題 責任者氏名	(フリガナ) (漢字等)
電話番号	FAX

協力機関名
住所
研究開発課題 責任者氏名
電話番号
E-mail
部署名
職名

すべての協力機関について事前了解は必要ありませんが、「調整中」など状況について明記してください。
E-Radでの申請時には、事前了承を得ている協力機関のみを「分担機関」として入力してください。

問合せ

〒100-8959

東京都千代田区霞が関 3 - 2 - 2

文部科学省 研究振興局 参事官（情報担当） 付

電話：03-6734-4235

E-mail：jyohoka@mext.go.jp

【ホームページURL】（公募情報、公募要領のダウンロード等）

http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1403785.htm

※ e-Radの操作方法に関する問合せ

e-Radヘルプデスク

0570-066-877(ナビダイヤル)

9:00～18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始を除く）

25